

施策 30 平和・人権施策の推進

目的

《対象》市民
 《意図》人権の大切さについて理解を深め、一人一人の人権を尊重する。平和の尊さを理解し、後世に語り継いでいく

施策の方向

○市民一人一人が、相互の理解と交流を深める中で、人権が尊重され平和に暮らすことができる共生のまちづくりを進めます。

施策の達成状況

まちづくり指標	基準値	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	目標値
人権教育・啓発事業への参加者数	7,240 人 (H25)	7,240 人	7,569 人	7,544 人	7,671 人	-	2万7,000人 (4か年累計) (H27~H30)
戦争についての話をしたり、聞いたことがある市民の割合	85.8% (H26)	83.8%	85.8%	85.8%	85.2%	82.2%	90.0% (H30)
国際交流・多文化共生事業の参加者数	1,515 人 (H25)	1,515 人	1,786 人	1,833 人	2,102 人	-	1,600 人 (H30)

その他

- 国際交流基金から国際交流平和基金へ改正（平成 28 年 4 月）
- 戦後 70 年事業として広島への市民派遣を実施（平成 27 年度）
- 東京都との共催により外国人おもてなし語学ボランティア講座を実施 など

■ 現状と課題

- 調布市は「調布市非核平和都市宣言（調布市議会）」、「調布市国際交流平和都市宣言（調布市）」の 2 つの平和宣言を行っています。また、平成 22 年 8 月には、核兵器のない平和な世界の実現を目的とした「平和市長会議」（現在「平和首長会議」）に加盟し、平和を希求する立場から、継続的に平和に関する事業に取り組んでいます。
- 東京都は、多文化共生推進の基本的な考え方と施策の方向性を示した「多文化共生推進指針」を平成 28 年 3 月に策定し、日本人と外国人が共に参加・活躍できる多文化共生社会の実現に向け、様々な取組を推進しています。
- 戦後 72 年が経過する中、戦争の悲惨な体験を風化させることなく、若い世代に着実に継承していくための取組を推進していく必要があります。
- 調布市は、2002 年サッカーワールドカップ日韓大会でサウジアラビアチームのキャンプ地として公認され、市民レベルでの交流を図るなどの国際交流を図り、現在もその交流が継続しています。
- 東京 2020 大会の開催に伴い、国内外から多くの来訪者が想定されます。言葉や生活習慣などの異なる文化を互いに理解し、地域社会の仲間として共に快適に暮らしていくことができる多文化共生社会の実現に向け、関係機関との連携・協力の下、外国人市民の生活支援や日本人市民との交流・共生を深める取組を推進していく必要があります。
- 東京都は、オリンピック・パラリンピックの開催都市としての、基本的人権が尊重される社会を守る姿勢を貫いていく必要があることから平成 27 年 8 月、東京都人権施策推進指針の見直しを行いました。
- 市立小・中学校では、人権の大切さについて理解を深め、豊かな人権感覚を養うため、人権教育を進めています。全国的に子どものいじめが問題視されている中、思いやりの心や社会生活の基本的なルール・マナーなどを身に付けることができるよう、家庭、学校、地域、行政の連携と協働の下、人権教育をより一層推進していく必要があります。
- 人権擁護委員による「人権身の上相談」を行うとともに、障害者や高齢者などの虐待や DV、性の多様性など、人権に関する様々な相談・啓発事業を一層推進する必要があります。

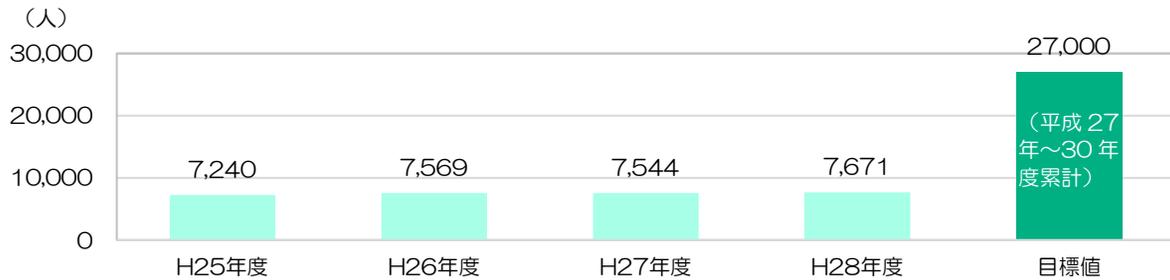
■ 次期基本計画策定に向けた主なポイント

- 人権の大切さについて理解を深め、一人一人の人権が尊重され平和に暮らすことができる共生のまちづくりを進めていく必要があります。
- 世界の様々な文化への理解を深め、市民の国際感覚の醸成に寄与できるよう、国際交流と多文化共生の地域社会づくりを促進していく必要があります。
- 東京 2020 大会に向け、市がホストタウンとなっているサウジアラビア王国との和 문화体験などの交流事業や、包括連携に関する共同宣言を行ったカナダ・ケベック州とも連携したイベントの開催等を通じ、多文化共生の地域づくりや市民の国際理解を引き続き醸成していく必要があります。

30-1 人権尊重の社会づくり

【まちづくり指標】人権教育・啓発事業への参加者数

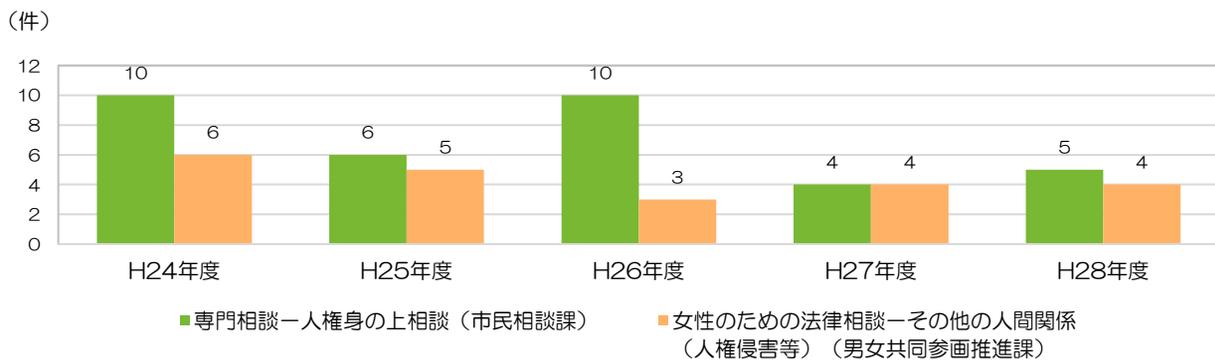
微増傾向で推移しており、平成 26 年度以降 7,500 人を超えています



資料：調布市行政評価

◆人権に関する専門相談・法律相談件数

専門相談は、平成 26 年度までは 10 件を超える相談がありましたが、平成 27 年度以降は 10 件未満となっています

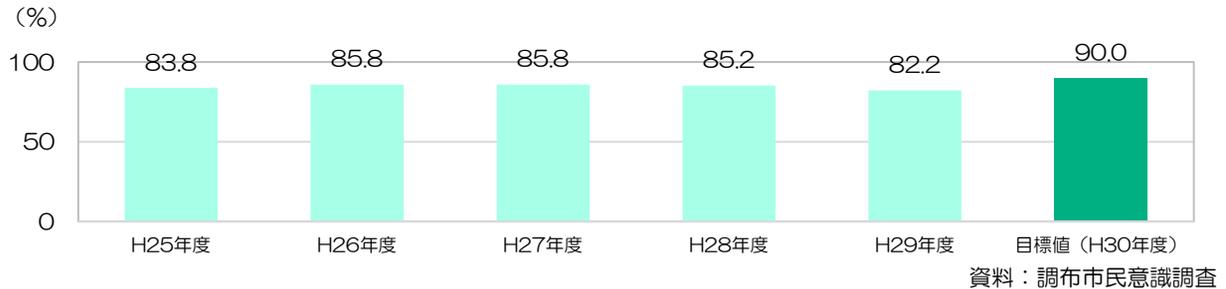


資料：調布市事務報告書 (市民相談課・男女共同参画推進課)

30—2 平和社会の推進

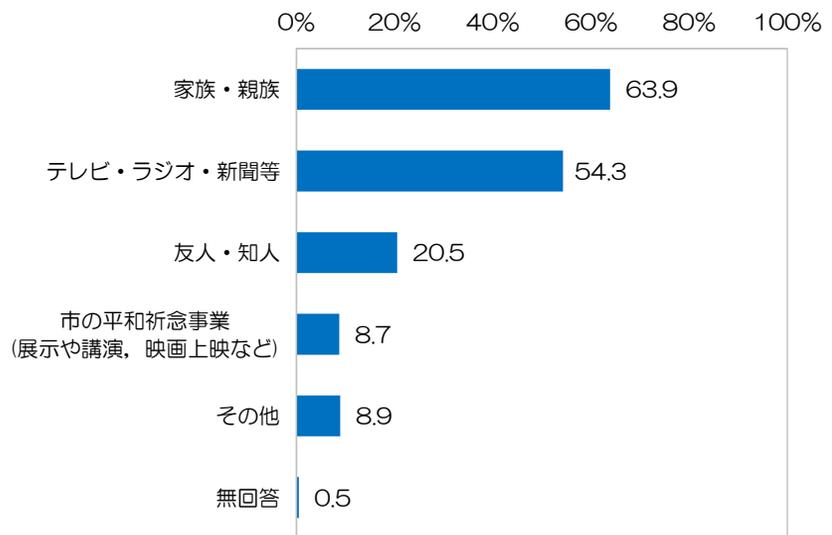
【まちづくり指標】戦争についての話をしたり、聞いたりしたことがある市民の割合

平成 26 年度以降 85%を超えています。平成 29 年度は減少しています
戦争体験者の高齢化が進んでおり、今後継承し続けられるかが課題です



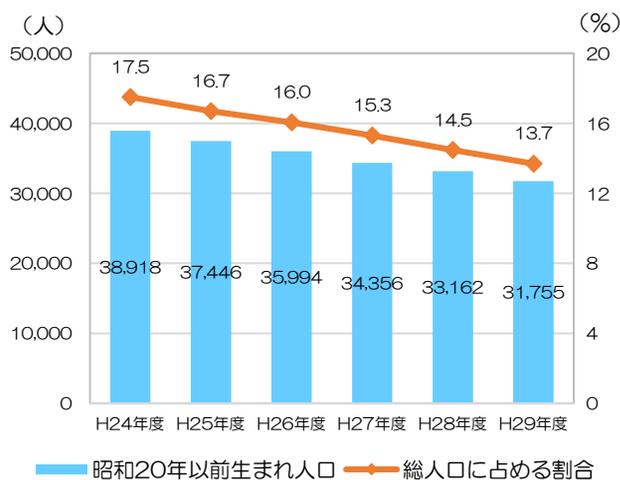
◆戦争についての話を聞いた相手（平成 29 年度）

家族・親族が最も多く、6割を上回っています
一方、市の平和祈念事業は1割を下回っています



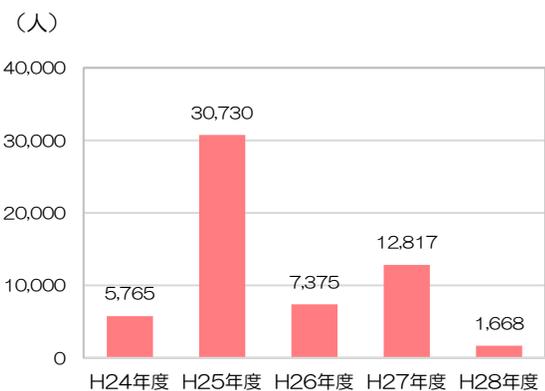
◆戦争体験者（昭和 20 年以前生まれ）人口の推移（各年 10 月 1 日現在）

平成 29 年度には 13.7%となり、3万人程度となっています



◆平和祈念事業への参加者数

平成 27 年度までは 5,000 人以上が参加していましたが、平成 28 年度は参加者が 2,000 人以下となっており、参加者の増加を促進する必要があります



◆平和祈念事業の内容（平成 28 年度）

平和展への来場者数は、1,000 人近くと最も多くなっています

事業名	来場者数
折り鶴プロジェクト	-
平和展「ヒロシマ原爆展」	921 人
映画「おかあさんの木」上映会	668 人
親子平和関連施設見学会「東京大空襲と関東大震災を知る」	39 人
平和祈念講演会「東京大空襲と戦争孤児の記憶」	40 人

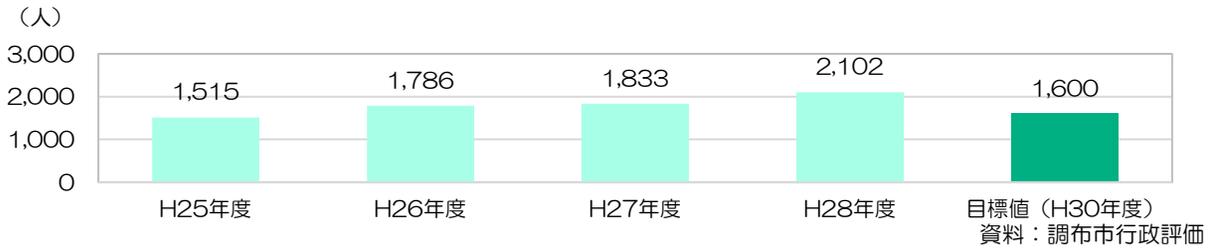
事業名	
戦争体験映像記録 DVD の作成・配布	60 枚
平和事業連絡会	2 回
平和祈念情報誌「ピース・レター ちょうふ」の発行	11,000 部（7 月）

資料：調布市事務報告書（平成 28 年度）（文化振興課）

30—3 国際交流と多文化共生の促進

【まちづくり指標】国際交流・多文化共生事業の参加者数

国際交流・多文化共生事業の参加者数は、年々増加しており、平成 26 年度以降目標値を達成しています



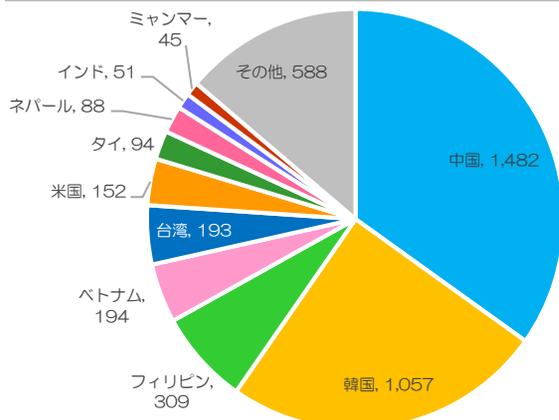
◆国際交流・多文化共生事業の内容（平成 28 年度）

事業名	共催事業	交流体験事業
国際交流協会	後援事業	国際理解講座 2016「幸せの国ブータンが教えてくれたこと」
		CIFA Friendship Day
アラブイスラーム学院体験学習会（小中学生対象）の実施		
「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座の実施	セットコース	おもてなしコース
英語体験事業「木島平の大自然で英語を学ぼう！」（市内在住・在学の小学 5・6 年生対象）		

資料：調布市事務報告書（平成 28 年度）（文化振興課）

◆外国人人口（平成 29 年）

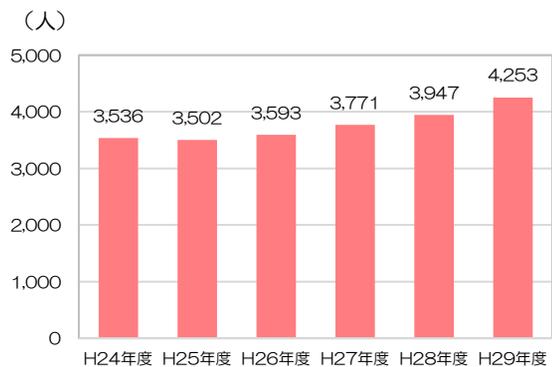
平成 29 年は中国が最も多く 3 割以上となっており、韓国とあわせると半数を超えます



資料：東京都総務局人口統計課「区市町村別国籍・地域別外国人人口（上位 10 か国・地域）」（平成 29 年 10 月）

◆外国人人口の推移

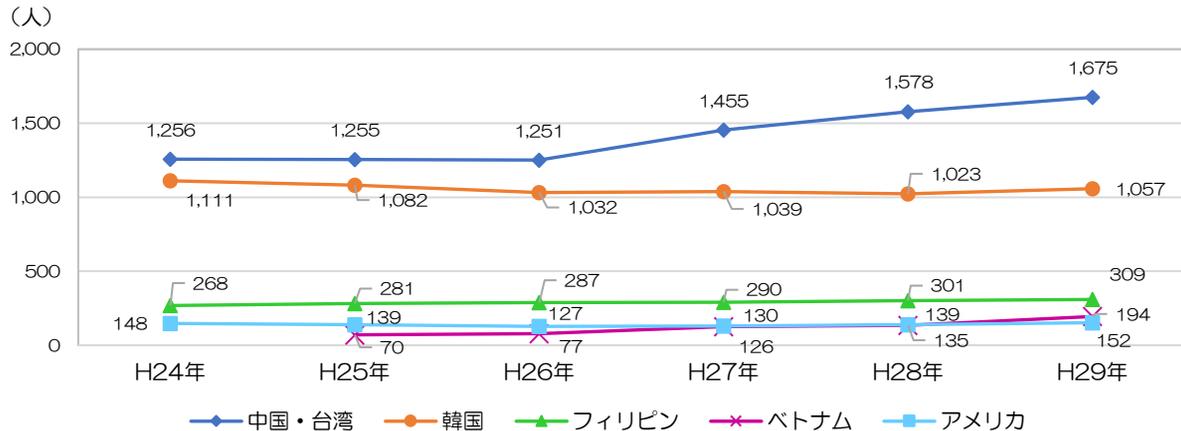
外国人人口は年々増加しています



資料：東京都総務局人口統計課「区市町村別国籍・地域別外国人人口（上位 10 か国・地域）」（各年 10 月 1 日現在）

◆上位5カ国（平成29年）の外国人人口の推移（各年10月1日現在）

平成24年以降、中国人及び韓国人の人口は、1,000人を超過しています

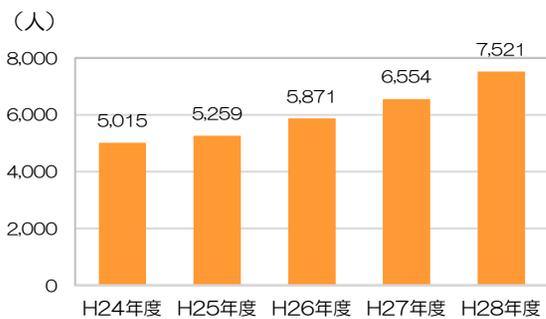


資料：東京都総務局人口統計課「区市町村別国籍・地域別外国人人口（上位10か国・地域）」（各年10月1日現在）
 ※平成28年まで「中国・台湾」の集計であるため、平成29年は「中国」と「台湾」を合計している。
 ※「韓国」は平成28年まで「韓国・朝鮮」の合計である。
 ※平成24年はベトナムのみのデータが存在しない。

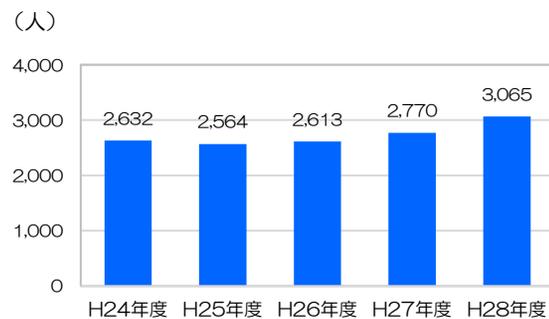
◆都内公立小・中学校における外国籍の子どもの人数

小学校、中学校ともに外国籍の子どもは年々増加傾向にあります

小学校



中学校



資料：東京都教育庁総務部教育情報課「公立学校統計調査報告書」

◆近隣自治体の外国人人口（平成29年比較）

近隣自治体の中で、調布市は2番目に外国人人口が多くなっていますが、割合は平均値程度です



資料：東京都総務局人口統計課「区市町村別国籍・地域別外国人人口（上位10か国・地域）」（平成29年10月）
 ※総人口に占める外国人人口の割合は東京都の統計「住民基本台帳による世帯と人口」（平成29年10月）を用いて算出

◆外国人人口が多い都内自治体（平成29年）

調布市は市部の中で5番目に多くなっています

順位	都内	人数(人)	市部	人数(人)
1位	新宿区	42,302	八王子市	11,954
2位	江戸川区	32,628	町田市	5,846
3位	足立区	29,131	小平市	4,990
4位	豊島区	28,398	府中市	4,863
5位	江東区	27,414	調布市	4,253
6位	板橋区	24,096	西東京市	4,160
7位	大田区	22,544	立川市	3,990
8位	北区	20,659	三鷹市	3,645
9位	葛飾区	20,093	福生市	3,590
10位	世田谷区	19,653	武蔵野市	2,995

資料：東京都総務局人口統計課「区市町村別国籍・地域別外国人人口（上位10か国・地域）」（平成29年10月）

多様な主体との連携事例

戦争体験映像記録 DVD の作製

市では、戦争を体験された世代が年々少なくなっているなか、戦争の悲惨さ、平和の尊さを後世に語り継ぐため、市内に住む戦争体験者に自身の戦争体験を語っていただき、その様子を映像に記録した DVD を作製し、保存していく事業を実施しています。作製した DVD は、市内小中学校に配付するとともに、幅広く市民が活用できるよう、市内図書館に配架しています。

【所管課】

生活文化スポーツ部 文化振興課

【協働のパートナー】

市民

調布市 戦争体験 映像記録

平成28年度



調布市生活文化スポーツ部文化振興課

<戦争体験映像記録>